

2020年度
金沢学院短期大学
学生の学修状況・学修成果等の検証
報告書

2021年3月30日
金沢学院短期大学

アドミッションポリシーの評価資料

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均を、大学全体・短期大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均を、大学・短大全体の平均と比較して+5点以上のものを「学内平均を上回った」、±5点の範囲のものを「学内平均と同程度」、-5点以下のものを「学内平均を下回った」と表記した。

短期大学全体の基礎学力確認テストの受験者は125名（昨年度比+6名）であった。

平均点は、英語（35点満点）が17.6点（ $SD=6.25$ ）で昨年度比+0.8点、数学（30点満点）が20.1点（ $SD=4.93$ ）で昨年度比-0.6点、2科目の総合成績（65点満点）が37.7点（ $SD=9.89$ ）で昨年度比+0.2点であった。ただし、2020年度の基礎学力確認テストは、新型コロナウイルス感染症への対策としてガイダンスの短縮等を図ったため、入学直後にすべてのテストを実施した学科と、入学直後には英語のみを実施して、前期末に数学を追加実施した学科がある。そのため、2019年度との比較には注意が必要である。また、このように実施時期にずれがあるため、いずれか1科目しか受験していない新入生もいるが、今回の分析からは1科目のみの受験者は除外した。

なお、2019年度の評価に用いた「**学ぶ意欲のある学生が入学してきたか**」および「**これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか**」の2項目については、これらの項目の基となる入学直後の新入生向けのアンケートが、新型コロナウイルス感染症への対策として新入生の登校を制限したことから実施困難であったため、2020年度は分析が未実施である。

【現代教養学科】**一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか**

【基礎学力確認テスト】英語：17.2 ($SD=7.06$)，数学：19.8 ($SD=4.84$)，総合 37.0 ($SD=10.6$)

現代教養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 43 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも短期大学の平均をやや下回った。総合成績の平均は 37.0 点 ($SD=10.6$) で，短期大学の平均 (37.7 点) よりも 0.7 点低く，2019 年度比では -1.7 点であった。英語と数学も，2019 年度に比べてそれぞれ -0.9 点，-0.8 点とわずかに下がっている。受験者数も 2019 年度よりも 1 名少ないのみであり，学力的にはほぼ同等であると言える。

本学科では，入学者が 10 名を超える入試区分がなく，入試区分別の比較は妥当ではない。短期大学の平均以上または平均並みの成績であった学生は全体の 72.1% で，2019 年度比で 18.0 ポイント減少した。短期大学の平均 -1SD 以下 (入学者全体の下位 15.93%) に相当する学生の比率は 9.7% で，2019 年度比で 0.6 ポイント上昇した。

評価

基本的な学力は短期大学の平均並みで，学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【食物栄養学科】**一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか**

【基礎学力確認テスト】英語：18.9 ($SD=5.56$)，数学：20.7 ($SD=5.02$)，総合 39.6 ($SD=9.28$)

食物栄養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 60 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも短期大学の平均をやや上回った。総合成績の平均は 39.6 点 ($SD=9.28$) で，短期大学の平均 (37.7 点) よりも 1.9 点高く，2019 年度比でも +2.9 点であった。受験者数が 2019 年度よりも 18 名増加しており，その上での数値であることから，学力は 2019 年度よりもやや高いと考えられる。

本学科では，一般入試と指定校推薦に入学者が偏っており，それ以外の入試区分ではすべて 1 ケタ台であるため，入試区分別の比較は妥当ではない。短期大学の平均以上または平均並みの成績であった学生は全体の 80.0% で，2019 年度比で 8.1 ポイント減少した。短期大学の平均 -1SD 以下 (入学者全体の 15.93%) に相当する学生の比率は 8.8% で，2019 年度比で 5.5 ポイント減少した。したがって，下位に位置する入学者の減少が，相対的な学力の上昇につながっている。

総合評価

基本的な学力は短期大学の平均よりもやや高く，学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【幼児教育学科】**一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか**

【基礎学力確認テスト】英語：14.7 ($SD = 5.12$)，数学：19.1 ($SD = 4.61$)，総合 33.8 ($SD = 9.01$)

幼児教育学科の基礎学力確認テストの受験者数は 22 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも短期大学の平均を下回った。総合成績の平均は 33.8 点 ($SD = 9.01$) で，短期大学の平均 (37.7 点) よりも 3.9 点低く，2019 年度比でも -2.9 点であった。受験者数が 2019 年度よりも 11 名減少しており，その上での数値であることから，学力は 2019 年度よりもやや下がっている可能性がある。

本学科では，基礎学力確認テストの受験者数が 22 名と少なく，さらに入学者が 10 名を超える入試区分がないため，入試区分別の比較は妥当ではない。短期大学の平均以上または平均並みの成績であった学生は全体の 50.0% で，2019 年度比で 37.9 ポイント減少した。短期大学の平均 -1SD 以下 (入学者全体の下位 15.93%) に相当する学生の比率は 12.0% で，2019 年度比で 5.9 ポイント増加した。したがって，下位に位置する入学者が，相対的に学力が低く出るといった評価につながっている可能性がある。

総合評価

基本的な学力が短期大学の平均よりも低いですが，学修に必要な基礎学力は備えていると考えられ，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし，一部の学生については，今後の学修状況に注意が必要であるかもしれない。

アドミッションポリシーに関する総合評価

以上の評価により，短大においては，アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えず，現在のアドミッションポリシーには大学の実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており，現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていない。ただし，一部の学科における学力の担保について，課題が残る。

カリキュラムポリシーの評価資料

○各学科の科目区分ごとの合格率と履修放棄率

2019年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳をすべて整理した。これらの科目を教育課程表に基づいて科目区分ごとに分類し、成績評価の内訳の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の人数を基に、履修放棄率を算出した。2019年度は履修放棄率の計算について「取消」も含めて計算し、分母も学期当初の履修登録者としたが、「取消」はGPAの算出に影響しないことを踏まえ、今年度の分析においては「放棄」のみを対象とした。

【現代教養学科】

①評価の対象とする科目

対象は、2018年度および2019年度の教育課程表に記載のある科目とした。本学科は、2018年度入学生と2019年度入学生でカリキュラムが異なっており、一部に科目区分を移行した科目が見られる。そこで、科目区分の移行による齟齬が生じないよう、評価のためのカテゴリー分けの際には教育課程表の「基盤科目」と「コース科目」を再分類し、「語学科目」と「その他科目」とした。その結果、カテゴリーごとの科目数は、総合科目12科目、語学科目16科目、その他科目42科目の、合計70科目となった。

②合格率と履修放棄率

科目カテゴリーごとの合格率の平均は、総合科目97.3%、語学科目94.4%、その他科目98.2%と、いずれも90%を超えた。合格率100%であった科目は、総合科目12科目中7科目(58.3%)、語学科目16科目中11科目(68.8%)、その他科目42科目中33科目(78.6%)であった。特にその他科目カテゴリーに入る「学生が選択したコースごとの履修科目」に合格率100%の科目が集中している。

履修放棄率は、総合科目2.7%、語学科目5.6%、その他科目1.8%といずれも低い数値となった。履修放棄率が10%を超えたのは2科目で、語学科目とその他科目のカテゴリーに各1科目である。これらの科目には履修者が15名未満で、他学科(大学所属)の教員が担当しているという共通点がある。

評価内訳については、成績評価が「良」・「可」の比率がやや高い科目が多く、「秀」と「優」の合計は総合科目39.2%、語学科目45.7%、その他科目42.4%と、いずれも履修登録者の半数を超えない。特に「良」の比率がどのカテゴリーでも30~35%程度になっている。

評価はやや低めではあるが、合格率が70%に満たない科目や、履修放棄率が10%を超える科目はなく、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。これより、評価対象としたカリキュラムに、学修計画の不備はないと判断する。

【食物栄養学科】

①評価の対象とする科目

対象は、2018年度および2019年度の教育課程表に記載のある科目とした。教養科目を語学系とそれ以外の科目に分け、それぞれ教養科目・語学科目のカテゴリーとした。この結果、教養18科目、語学5科目、専門38科目の計61科目を対象とした。なお、2018年度の教育課程表では、専門科目を専門基礎科目と専門実践科目に区分しているが、この報告書では2019年度の教育課程表に準拠して、専門科目のカテゴリーは1つにまとめた。また、栄養教諭II種の免許状取得に関わる教職科目は、分析か

ら除外した。

②合格率と履修放棄率

科目カテゴリーごとの合格率の平均は、教養科目 98.9%、語学科目 98.1%、専門科目 98.9%と、いずれも 98%を超えた。合格率 100%であった科目は、教養科目 15 科目中 6 科目 (40.0%)、語学科目 5 科目中 3 科目 (60.0%)、専門科目 38 科目中 21 科目 (55.3%) であった。合格率 95%のラインで見ると、語学科目のカテゴリー1 科目 (94.7%) を除くすべての科目がこの基準に該当する。

履修放棄率の平均は、教養科目 1.1%、語学科目 1.9%、専門科目 1.1%といずれも極めて低い数値となった。履修放棄率が 10%を超える科目はなく、最も高い科目でも 5.3%である。この科目は上記の合格率 94.7%の語学科目であり、合格率の低さは履修放棄者の数に影響されたものである。

評価内訳については、「秀」と「優」の合計の比率が 50%を超えるカテゴリーはなく、教養科目が 49.2%、語学科目が 40.5%、専門科目が 38.8%であった。どのカテゴリーでも「秀」は 20%未満であった。専門科目のカテゴリーでは、「可」の比率が最も高く、36.6%になっている。科目ごとに「可」の割合を確認すると、履修登録者の 30%以上が「可」である科目が 24 科目 (63.2%) に達しており、このうち 8 科目が実験・実習科目であった。

評価はやや低めに偏る科目の比率が高いが、合格率はすべて 98%を超える値であり、また履修放棄率が 10%を超える科目もなく、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。卒業時の栄養士資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目については、今後学生の状況等を精査する。

【幼児教育学科】

①評価の対象とする科目

対象は、2018 年度および 2019 年度の教育課程表に記載のある科目とした。教育科目 9 科目、専門科目 46 科目を対象とした。他の 2 学科のような「語学」に相当する科目は 1 科目しかなく、独立したカテゴリーとするのは不適切であるため、本学科においては語学科目のカテゴリーは作らずに分析した。

②合格率と履修放棄率

科目カテゴリーごとの合格率の平均は、教育科目が 97.1%、専門科目が 98.4%となり、いずれも 95%を超えた。合格率 100%であった科目は、教育科目 9 科目中 6 科目 (66.7%)、専門科目 46 科目中 23 科目 (50.0%) であった。合格率 95%のラインで見ると、対象とした全科目がこの基準に該当する。

履修放棄率の平均は、教育科目 2.9%、専門科目 1.6%といずれも低い数値となった。履修放棄率が 5%を超える科目はなく、履修放棄した者の実数は、履修放棄のあった科目のすべてで 1 名であった。

評価内訳については、「秀」と「優」の合計の比率が、教養科目で 47.8%、専門科目で 54.2%となり、ほぼ半数であった。教育科目のカテゴリーでは「良」(38.5%)、専門科目のカテゴリーでは「優」(31.1%)の比率が最も高くなった。履修登録者の 30%以上が「可」である科目は、専門科目 7 科目 (15.2%) であった。その他の科目には偏りは見られないが、1 科目のみ「優」以上の比率が 6.9%となった科目がある。合格率はすべて 98%を超える値であり、また履修放棄率が 10%を超える科目もなく、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。保育士・幼稚園教諭 2 種の資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目については、今後学生の状況等を精査する。

カリキュラムポリシーに関する総合評価

短大においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。また、食物栄養学科および幼児教育学科においては、卒業時に資格（栄養士、保育士・幼稚園教諭 2 種）を取得することを前提として、カリキュラムが編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（その段階にそぐわない内容や難易度）があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた成績の低評価への強い偏りについては、今後の精査を必要とする。

ディプロマポリシーの評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、卒業研究に相当する科目を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

②卒業率（2年での学修達成率）

2018年度に入学し、2019年度に2年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。

【現代教養学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

現代教養学科では、「総合演習」が卒業研究に相当する。34名が履修し、合格率は100%であった（2018年度の合格率は100.0%）。成績評価は、「秀」が8.82%（2018年度は28.2%）、「優」が23.5%（同28.2%）、「良」が32.4%（同20.5%）、「可」が35.3%（同23.1%）である。「秀」と「優」を合わせて32.4%（同56.4%）であり、2018年度よりも成績は下方に集中している。

②卒業率（2年での学修達成率）

2018年度4月に入学した学生は36名であった。このうち94.4%に相当する34名が、2年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。2018年度の卒業率は、92.9%であった。

③就職内定率

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。

総合評価

卒業研究のテーマは、入学してから「総合科目」、「基盤科目」、「基礎・コース科目」を学んだ上で、各自が興味を持った内容である。2年間の学びの集大成として十分な学修成果を上げたといえる。

以上①から③までの評価に基づき、2018年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【食物栄養学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

該当する科目なし。

②卒業率（2年での学修達成率）

2018年度4月に入学した学生は48名であった。このうち93.8%に相当する45名が、2年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。2018年度の卒業率は、98.0%であった。

③就職内定率

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。

総合評価

以上②、③の評価に基づき、2018年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【幼児教育学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

幼児教育学科では、2019年度に最初の卒業生を輩出したので、過去の比較対象はない。幼児教育学科の「卒業研究」は29名が履修し、合格率は100%であった。成績評価は、「秀」が34.5%、「優」が24.1%、「良」が34.5%、「可」が6.9%である。「秀」と「優」を合わせて58.6%であった。

②卒業率（2年での学修達成率）

2018年度4月に入学した学生は31名であった。このうち93.5%に相当する29名が、2年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。

③就職内定率

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。

ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、短大においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。